儘可決セラレ然ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

大正十一年六月三日

書記官長

議長宛

大正十一年六月十四日

委員長 伊東巳代治

委員 金子堅太郎 男爵 西園寺公望 子爵 牧野伸顕

「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批准ノ件

樞密院

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

後事ニ委シ其ノ審査ノ結果ヲ報告スルノ時期ニ達シタリ

抑對獨平和條約第百十九條ノ規定ヲ以テ獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國即チ日、英、米、佛、伊ノ五大國ノ為ニ抛棄シタルカ同條約第二十二條ノ所謂委任統治ニ關スル規定ニ依レハ該舊獨逸領地域ノ施政ニ付テハ適當ナル先進國ニ於テ國際聯盟ニ代リ受任國トシテ後見ノ任務ヲ分擔スヘキモノトセルニ由リ大正八年五月聯合國

最高會議ハ受任國及委任地域ノ割當ヲ決定シ「ヤップ」島其ノ他赤道以北ノ舊獨逸領諸島全部ヲ以テ帝國ノ委任統治ニ屬セシムルコトトシ踰テ大正九年十二月聯盟理事會ハ右最高會議ノ決定ニ基キ前記條約第二十二條ノ規定ニ據リテ該地域ノ施政ニ關スル委任統治條項ヲ決定シ帝國ハ右委任ヲ受諾シ委任統治條項ニ同意シタリ然ルニ大正九年十月華盛頓ニ開催セラレタル國際通信豫備會議ニ於テ「ヤップ」島ヲ通過スル舊獨逸海底電信線三線ノ歸屬ヲ協議スルニ

當リ亞米利加合衆國ハ右「ヤップ」島ノ地位ニ關シ異議ヲ述ヘ同國ハ前掲大正八年五月ノ聯合國最高會議決定以前ニ「ヤップ」島カ太平洋ニ於ケル國際電信ノ中樞タル地位ヲ占ムルノ故ヲ以テ之ヲ國際管理ニ付セムコトヲ提唱シタルニ該會議ハ此ノ米國ノ提案ニ對シ何等積極的表意ヲ為ササルニ由リ「ヤップ」島ノ地位ハ未解決ノ狀態ニ在ルモノニシテ之ヲ日本國ノ委任統治地域ニ包含セシムルコトハ米國ノ承認スルコト能ハサル所ナル旨ヲ主張シタルカ大正十年四月ニ至リ米國新政府ハ更ニ其ノ主張ヲ擴充シ同國カ對獨平和條約ヲ批准セサルノ故ヲ以テ同條約及之ニ基ク決定ニ拘束セラルルコトナシト論シ且戰勝ノ權利トシテ各聯合與國ト同樣ノ利益ヲ享スヘキモノト為シ又米獨間講和條約ヲ締結シタル結果獨逸國カ五大國ノ為ニ抛棄シタル諸般ノ利益ニハ米國モ亦均霑シタルモノト為シ即チ根本的ニ帝國ノ委任統治ヲ非議スルノ見地ヲ採リ本件ヲ以テ再ヒ聯合國最高會議ノ審議ニ付セムコトヲ要望シ列國モ亦

一時之ヲ承諾セムトスルノ形勢アリシモ結局日米兩國間ノ直接交渉ニ依リテ本件ノ圓滿ナル解決ヲ見ムコトヲ希望スル旨ノ意思ヲ表明セリ茲ニ於テ帝國ハ中外諸般ノ情勢ヲ顧念シ此ノ際從來ノ法律的論議ヲ離レ主トシテ實際的考察ニ基キテ兩國間ニ直接交渉ヲ遂ケ以テ本件ノ解決ニ達セムコトヲ得策トシ彼我ノ間照復ヲ重ネタル結果稍ク兩者意見ノ一致スル所アリ終ニ本條約締結ノ協議調ヒ本年二月十一日華盛頓ニ於テ兩國全權委員ノ調印ヲ了スルニ至レリ而シテ米國カ當初「ヤップ」島ノ地位ニ關シテ異議ヲ挾ミタ　直接ノ動機タル同島ヲ通過スル三海底電信線ノ處分ノ問題ニ付テハ當局ノ説明ニ依レハ最近華盛頓ニ於ケル五大國商議ノ結果既ニ「ヤップ」ー上海線ヲ帝國ニ、「ヤップ」ー「グアム」線ヲ米國ニ、「ヤップ」ー「メナド」線ヲ和蘭國ニ歸屬セシムルコトニ協定成リ追テ太西洋其ノ他ノ舊獨逸海底電信線ノ處分ト一併シテ公然之ヲ決定スルノ運ニ到ルヘシト言フ

本條約ハ米國ヲシテ帝國ノ「ヤップ」島其ノ他諸島

ム對スル委任統治ヲ確認セシムルコト及該地
域ノ施政ニ關シ米國ニ特殊ノ便宜ヲ與ヘ且「ヤッ
プ」島ニ於ケル電氣通信ニ關シ同國ニ特殊ノ地
位ヲ認ムルコトヲ主眼トスルモノニシテ其ノ
條項ノ要旨ヲ開陳スレハ大凡左ノ如シ
(一)米國ハ帝國カ日、英、佛、伊ノ四國間ノ協定ニ基
キ聯盟理事會所定ノ委任統治條項ニ據リテ
「ヤップ」島其ノ他太平洋中赤道以北ニ位スル一
切ノ舊獨逸領諸島ノ施政ヲ行フコトニ同意
ス(第一條)是レ米國カ前來ノ異議ヲ拋棄シ四
大國間ノ確定議ニ同意シテ右地域ニ於ケル
帝國ノ委任統治ヲ承認シタルモノナリ但シ
同國ハ以下ニ列記スル諸項ヲ以テ其ノ同意
ノ條件ト為ス
(二)米國ハ前記地域ニ於ケル帝國ノ施政ニ關シ
左ニ掲クル利益ヲ享有ス
(イ)委任統治條項第三條乃至第五條ニ規定ス
ル所即チ帝國カ該地域ニ於テ奴隷賣買ヲ禁
止スルコト、公共事業ノ為ニスルニ非サレハ
強制勞働ヲ課セサルコト、武器彈藥ノ取引ヲ

取締ルコトヽ土著民ニ對スル火酒類ノ供給ヲ禁止スルコトヽ原則トシテ土著民ニ軍事教育ヲ施ササルコトヽ陸海軍根據地及築城ヲ建設セサルコトヽ支障ナキ限リ良心ノ自由及各種禮拜ノ自由執行ヲ確保シ宣教師ヲシテ其ノ職務ノ為在住旅行スルヲ得シムルコトニ付米國ハ國際聯盟國ト同一ノ利益ヲ受ク（第二條第一項）

(ロ) 一切ノ宗教ノ米國人宣教師ハ該地域ニ於テ在住旅行シ財産ヲ取得占有シ宗教的建物ヲ建設シ學校ヲ開設スルノ自由ヲ有ス尤モ帝國ハ之ニ對シテ監理ヲ行ヒ之カ為必要ナル措置ヲ執ルコトヲ得（同條第一項第二項）茲ニ掲クル米國人宣教師ノ財産ノ取得占有ハ當局ノ説明ニ依レハ大體ニ於テ其ノ職務執行ノ為ニスルモノニ限リノ趣旨ナリト言フ

(ハ) 該地域ニ於ケル米國人ノ既得財産權ハ如何ナル手段ニ依ルモ侵害セラルルコトナシ（同條同項第二項）當局ノ説明ニ依レハ茲ニ所謂既得財産權ハ本條約成立ノ際現存スルモノニ限

リ将来取得セラルルモノヲ含マス又之ニ對シテハ公用徴收ヲモ行フコトヲ許ササルノ意ナリト言フ

(二) 日米通商航海條約其ノ他兩國間現存諸條約ハ之ヲ該地域ニ適用ス(第三條同項)是レ帝國關係ノ國際條約ハ當然委任統治地域ニ適用セラルルモノニ非サルカ故ニ日米兩國間ニ特ニ之ヲ約定スルノ趣意ナル旨當局ニ於テ言明シタリ

(ホ) 米國ハ帝國カ國際聯盟理事會ニ提出スヘキ委任統治年報ノ複本ノ送付ヲ受ク(同條同項第四號)

(ヘ) 今後聯盟理事會所定ノ委任統治條項カ變更セラルルコトアルモ米國カ之ニ同意セサル限リ本條約ノ規定ハ該變更ニ依リテ影響セラルルコトナシ(同條同項第五號)然レトモ帝國施政ノ準則ハ國際聯盟ニ對シテ約スル所ト米國ニ對シテ約スル所ト抵觸スルヲ許ササルコト論ヲ俟タサルカ故ニ結局帝國ハ米國ノ同意アルニ非サレハ委任統治條項ノ變更ニ承諾スヘカラサル立場ニ在ルモノナリトス

(三)米國及其ノ國民ハ「ヤップ」島ニ於ケル海底電信線ノ陸揚及運用並無線電信ニ依ル通信ニ關スル一切ノ事項ニ付日本國又ハ他ノ各國及其ノ國民ト全然均等ノ地歩ニ於テ同島ニ出入スルコトヲ得ルモノトス尤モ日本國カ同島ニ無線電信局ヲ設立維持シ内外ノ通信ニ對シ無差別且有效ノ取扱ヲ為ス限リ米國又ハ其ノ國民ハ同島ニ無線電信局ヲ設立スルノ權利ヲ行使セス(第三條)

(四)米國及其ノ國民ハ「ヤップ」島ニ於テ電氣通信ニ關シ左ニ掲クル利益ヲ享有ス(第四條)

(イ)米國國民ハ無制限ノ居住權ヲ有シ米國及其ノ國民ハ日本國又ハ他ノ各國及其ノ國民ト同等ニ一切ノ動産不動産及之ニ關スル利益ヲ取得保持スルノ權利ヲ有ス

(ロ)米國國民ハ電氣通信ニ關スル權利ニ付許可又ハ免許ヲ受クルノ義務ナシ

(ハ)電氣通信ノ運用又ハ通信ニ關シ檢閲又ハ監督ヲ受クルコトナシ

(ニ)米國國民ハ其ノ身體財産ニ付同島出入ノ

完全ナル自由ヲ有ス

(ホ)電氣通信ノ運用又ハ財産人、船舶ニ關シ一切ノ租稅、課金及取立金ヲ徵收セラルルコトナシ

(ヘ)差別的警察規則ヲ適用セラルルコトナシ

(ト)日本國ハ米國又ハ其ノ國民ノ為電氣通信事業上必要ヒムヲ得サルトキハ公用徵收權ヲ行フヘキモノトス

(チ)電氣通信ニ供用セラルル米國又ハ其ノ國民ノ財産ハ公用徵收ヲ受クルコトナシ

(五)本條約ハ批准ヲ要シ批准書ハ成ルヘク速ニ

華盛頓ニ於テ之ヲ交換スヘク批准書交換日ヨリ實施ノ效力ヲ生スヘキモノトス(第五條)

本條約ノ附屬タル日米兩國間交換公文二件アリ其ノ一ハ帝國カ委任統治諸島ノ港及水面ニ到來スル米國ノ國民及船舶ヲ遇スルニ常例ノ國際禮讓ヲ以テスヘキコトヲ定メタルモノナルカ是レ嘗メ米國カ該諸島ノ各地ニ自由ニ出入スルノ權利ヲ得ムコトヲ主張シ帝國之ニ反對シタルノ結果成立シタル了解ニシテ日米通商航海條約ヲ該諸島ニ適用スルニ於テハ實ハ

別段ノ效益ナキモノナルヒ旨當局ニ於テ言明セリ其ノ二ハ米國カ他日赤道以南ノ舊獨逸領諸島ノ受任國タル濠洲及新西蘭ト通商條約ヲ締結スルニ當リテハ同條約ヲ該諸島ニ及ホサムコトヲ要求スヘキ旨並米國カ他日日本國以外ノ受任國ニ對シ其ノ委任統治ニ同意スルノ條約ヲ締結スルニ當リテハ其ノ施政年報ノ複本ノ送付ヲ要求スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ是レ帝國カ他ノ受任國ニ先ンシテ右二件ヲ米國ニ許諾スルコトヲ難シトシタルニ對シ米國カ他國ニ向テモ同樣ノ要求ヲ為スヘキコトヲ保障シタルモノナリ

本條約成立ニ到ル迄ノ日米兩國間交渉ノ經過及本條約ノ解說ニ付テハ別冊外務省ノ作成ニ係ル「マップ」島問題ニ關スル交渉經過」及本條約ノ解說概要ヲ參照ニ供セラレムコトヲ望ム

本條約ハ米國ニ於テ既ニ上院ノ無留保承認ヲ經本月二日大統領之ヲ批准シ終リタリ

按スルニ帝國ノ委任統治ニ關スル米國ノ異議

ハ始メハ同國カヤップ島ヲ帝國ノ委任統治地域ニ包含セシムル旨ノ聯合國最高會議ノ決定ニ留保ヲ付シタリト主張スルニ過キサリシカ後ニハ同國カ對獨平和條約ヲ批准セサルヲ其ノ論據トスルコトト為リ其ノ間事態頓ニ重大ヲ加ヘタリ惟フニ當初聯合國最高會議ニ於ケル米國ノ異議發言以來周密ナル用意ヲ以テ事ヲ執リ彼ヲシテ非議ヲ肆ニスル餘地ナカラシムルコト及彼ノ措置ニ對抗シテ之ニ處スヘキ機宜ノ施為ヲ講スルコトニ於テ我カ政府當局ノ舉措果シテ克ク遺算ナキノ得タルカ蓋シ幾分ノ疑惑ナキニアラサルナリ然レトモ此クノ如キハ今ニ於テ事全ク既往ニ屬シ復タ如何トモスヘキ所ナシ若シ本條約ノ成立ニ因リテ兩國間前來ノ爭議ヲ解決シ兩國ノ交誼ニ一段ノ親善ヲ致シ帝國大局ノ地位ニ利スル所アルコトヲ得ハ固ヨリ國家ノ慶幸ト為ササルヘカラス即チ本條約ハ此クノ如キ希望ヲ以テ帝國ニ於テ之ヲ採納スルノ最終ノ決定ヲ與ヘラルルコト已ムヲ得サル所ナリト思料ス但シ本官等

此ノ議ヲ定ムルニ在リ更ニ所懷ヲ述ヘテ當局ノ省慮ヲ促スヘシト認ムルモノアリ其ノ事項左ノ如シ

(一)本條約ノ條項及附屬公文ヲ通看スルニ當路諸官ニ於テ或ハ嚴正ナル觀念ト周到ナル注意トニ缺クル所アリシニ非サルカヲ疑ハシムルモノナシトセス試ニ其ノ一二ヲ指摘セムカ第二條第二項第一號ニ掲クル米國人宣教師ノ財産ノ取得占有ハ委任統治條項第五條ノ如キ制限ノ文字ナキニ拘ラス果シテ當局説明ノ如ク其ノ職務執行ノ為ニスルモノニ限ルノ趣旨ニ解セラルヘキカ、同條同項第二號ニ所謂米國人ノ既得財産權ハ本條約成立ノ際現存スルモノニ限ラルヘキカ、之ニ對シテハ何人ノ為ニモ又如何ナル事業ノ為ニモ公用徵收ヲ許ササルノ意明瞭ナルカ、附屬公文第一ニ定メタル常例ノ國際禮讓ヲ以テ米國ノ國民及船舶ヲ遇スヘシトハ果シテ何ヲ意味スルカ此等ノ諸點カ他日實地ニ臨ミテ兩國間紛爭ノ種因タラサルナキカヲ惧ル

ルハ必スシモ一片ノ杞憂ノミニ非サルナリ
當局諸官カ本條約訂結ノ際其ノ條項ノ編成
ニ一段ノ用意ヲ加ヘテ此クノ如キ疑義ヲ眇
ササルノ途ニ出テサリシコト本官等ノ深ク
遺憾トスル所ニシテ今後本條約ノ實施スル
ニ當リ當路諸官ニ於テ周到ナル注意ヲ施シ
以テ其ノ適正ナル解釋ニ依リ帝國ノ利益ヲ
保有スルニ遺策ナカラムコト本官等ノ希望
ニ堪ヘサル所ナリ

(二)本件交渉ノ際帝國カ日米間協定ニ依リ他ノ
受任國ニ先ンシテ對米諸條約ヲ委任統治地
域ニ適用シ且施政年報ノ複本ヲ米國ニ送付
スル旨ヲ約諾スルコトヲ難シトシタルハ素
ヨリ當然ノ主張ナリ然ルニ商議ノ結果米國
ヲシテ纔ニ附屬公文第二ニ依リ他ノ受任國
ニ對シテモ亦同樣ノ要求ヲ為スヘキ旨ヲ聲
明セシムルコトヲ以テ我方ノ主張ヲ撤回シ
タルハ果シテ克ク失當ノ譏ヲ免ルヘキカ若
シ米國ノ該要求ニ對スル他ノ受任國ノ應諾
ヲ以テ帝國カ前記二件ノ義務ヲ履行スルノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

必要條件ト為シ且此ノ趣旨ヲ本條約ノ本文ニ昭明スルコトヲ得タラムニハ帝國ノ利益ヲ確保スルニ於テ略、意ヲ安ンスヘキモノアリ事此ニ出テサリシハ本官等ノ切ニ遺憾トスル所ナリトス又附屬公文第二ニ於テ太平洋上赤道以南ノ舊獨逸領諸島ノ受任國トシテ濠洲及新西蘭ヲ擧クルニ止マリ右諸島中「ナウル」島ノ受任國タル英本國ニ及ハサリシハ亦闕漏ノ一タルヲ免レサルヘク特ニ附記シテ當局ノ省察ヲ待タムト欲ス抑本項ノ事

タルヤ實ニ各受任國ニ共通セル問題ナル以テ萬一帝國ノミ獨リ此ノ義務ヲ負擔スニ終ラムカ國家ノ不面目言ヲ俟タサルカ故ニ政府當局ニ於テ其ノ間ニ處スル機宜ノ措置ヲ誤ラサラムコト本官等ノ切ニ希望スル所ナリトス

本條約ノ條項ニ付テハ敘上ノ如ク特ニ意見ヲ附スヘキモノナキニアラスト雖其ノ成立ニ至ル迄ノ經過ニ照シ大局ノ利害ニ考ヘ又米國ニ於テモ既ニ之ヲ批准シタリトノコトナルヲ以

テ帝國ニ於テモ之ヲ承認スルノ外ナシト思料セラルルニ依リ審査委員會ニ於テハ本案ノ條約御批准ノ件ハ之ヲ可決セラレ然ルヘキ旨前記二點ノ事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

大正十一年六月十四日

審査委員長

樞密顧問官子爵伊東巳代治

審査委員

樞密顧問官子爵金子堅太郎
樞密顧問官男爵穂積陳重
樞密顧問官　安廣伴一郎
樞密顧問官　一木喜德郎
樞密顧問官　富井政章
樞密顧問官　平山成信
樞密顧問官　有松英義
樞密顧問官　倉富勇三郎

樞密院議長子爵清浦奎吾殿

大正十一年六月十九日

委員長 山 伊東

委員

男爵 平山

子爵 徳川

男爵 有栖川

男爵 高崎

男爵 金子

太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ關スル四國條約竝追加協定

御批准ノ件審査報告